

高津区おはなしアーカイブ

●村田照子（むらた てるこ）さん

昭和2年生まれ 87歳

川崎市高津区梶ヶ谷在住



◆この地に嫁いだきっかけは

村田家は、江戸時代から約350年続いた旧家で、夫の村田武夫が15代目でした。この近くに、村田家はたくさんありますが、同じ苗字でも、家紋が違って2系統あります。

私が、この家に嫁いだ年は昭和27年、26歳のときでした。実家は神奈川県相模湖町で、父親が小学校長だったので私も先生をしてました。私の小学校時代の恩師と主人の姉の夫が同じ学校に勤めていた関係で、この結婚の話が来ました。勤務していた小学校の父母たちは「先生、そんなに遠くへ行ってしまうの」と心配していたようです。

特に生徒の父親で、宮崎台にあった62部隊に配属されていた人から「なぜ、あんな田舎に！」と言われました。でも、夫の姉が仲人役にもなってくれて決意しました。

嫁いで思ったのは、実家の相模湖町も梶ヶ谷も山は山ですが、大きな違いは相模湖町のほうが観光地化されていて、ここは本当に田舎だということでした。

昔の結婚式は、家で祝宴をあげます。当日は1日ばかりでした。まず、村田家からお仲人など7人が、実家に迎えにきます。一緒に実家で門出の祝宴を済ませ、実家側から髪結いさんも共に、一行が村田家に行きます。そのとき、小学生の教え子たちが駅まで送ってくれたことが忘れられません。

そして村田家に着いて、夕方から宴会が始まります。髪結いさんに手伝ってもらってお色直しもしましたよ。よくテレビで花嫁が白無垢で式をあげてますが、私は江戸褌でしたね。そして暗くならない夕方5時頃でしょうか、遠い実家側の人々は引き上げていきます。それから、本格的な宴会が始まり夜中まで続きます。近所へのお披露目ですね。夕方から始まるというのは、嫁が暗くて帰れないという意味があるのかもと思いましたよ(笑)。そして、最後は、嫁が来客に普通にお茶だしをして、結婚式が終わりました。ほとんど、何も食べられませんでしたねえ。

◆子育てについては

女の子を2人もうけました。小学校教諭をしているときは、気を使いながらも姑に子育てのお手伝いをお願いしました。

長女は千年の幼稚園に、次女は野川台の幼稚園に通わせました。小学校は2人とも野川小学校です。梶ヶ谷小学校は、2人が卒業してからできました。中学は姉妹別々、長女は南武線中野島にある私学に行かせました。

当時は、中野島はここから武蔵小杉までバス、そこから南武線で約1時間もかかりました。将来、梶ヶ谷駅ができるなんて、夢にも思いませんでした。

医者は、近くにいないので、溝口まで行きました。よく行ったのは、岡医院です。何でも診てくれました。今でもある鈴木医院は、バイクで夜中でも往診してくれましたよ。

◆当時の教育環境は

子どもが幼稚園に通わないのは当たり前でした。なぜなら、農家の親たちは、田んぼに子どもを連れて行けば、そこで親子一緒にいられるわけですから。

私は、たまたま教育に携わっていたので、自分の娘たちを幼稚園に行かせただけです。

農家の子どもは農繁期には下校すると女の子は家の手伝いや子守り、男の子は高学年になると畑仕事が待っていました。私も家に帰ったら、まったく普通のお母さんで

した。自分の子どもたちに勉強を教えるなんてことはしませんでしたね。当時、梶ヶ谷から野川小学校に通っていたのは、男女とも1学年に5、6人でした。

昭和30年代のこの地域の教育事情は、あまり良いとは言えませんでしたね。大学出身者はほとんどいませんでした。どんなに裕福だろうとも関係なく、家を継ぐということに重きが置かれていました。家の仕事の手伝いがそれほど大変だったのです。現在90歳代の方が、「昔、畑で鎌を持って働いていたとき、ふと顔をあげると、道行く女学生が見えて涙が出るほど羨ましかった」と言っていました。

◆当時の農家の様子は

梶ヶ谷の農家はほとんど米や麦、ネギなどの野菜を作っていました。私の家は、畑は人にやっていただき、家族の食べる分だけは確保して、夫は農協に勤めてました。

戦前は、村田家は溝口まで山や畑を持っていましたから、自分の地所だけで歩いていけたと言われてましたが、農地改革で土地はほとんどなくなりました。

その後、昭和40年頃には区画整理が始まりました。区画整理に関しては、人々の反対はなかったですね。駅ができてお勤めをする人には楽になりました。

蔵はいくつか壊してしまいましたが、今でも2つあります。昔は井戸水を使っていましたが、今は使っていません。この人口

増加で現在、自宅前にマンホールが5つあり、上下水道の敷設工事で大変です。

昔から祭りは、あまり盛んではなく、「梶ヶ谷は地味で良い」と言われたほどです(笑)。

それでも、梶ヶ谷4丁目の商店街では、素人たちが作った「樽御輿」(たるみこし)を担いでいましたが、今はないですね。

梶ヶ谷には商店は「吉原商店」の1軒だけでした。酒を売るのが主ですが、いわゆる何でも屋さんです。

魚や豆腐は馬絹からの引き売りで買えましたが、牛肉や豚肉は衛生上引き売りはなく、食べられませんでした。せいぜい食べられても1年に何回くらいでしたね。そのかわりに鶏を食べました。卵を毎日食べていました。

梶ヶ谷で農耕のために牛を飼っていたのは3軒、乳牛は戦後からです。馬はずっといませんでした。

◆交通の便はいかがでしたか

とにかく、ここに嫁いだときは、交通の便が悪くてびっくりですよ。ここから歩いて溝口まで40分、そこからやっと南武線が通っていました。バスに乗ろうとしても20分は歩きました。バスも1時間に1本です。山坂の傾斜があるので、「ねもじり坂」あたりになると、バスの運転手が「みなさーん、降りてくださいーい」と言って、バスの

後ろから乗客が押し上げることもあったんですよ。

道路も梶ヶ谷から馬絹まで、狭いのなんのって。洗足、久本と歩いて山を越えて溝口にたどり着くのです。当時、高津小学校まで毎日、ズックで通いました。時々、川崎方面の小学校に出張などがあるときは、ズックで行くのが恥ずかしいので、教壇の下にハイヒールを備えていました。

よく男性教諭から「梶ヶ谷は電気がつくの?」とか、「梶ヶ谷は僻地だよなあ」とか冗談を言われてましたっけ。

嫁いで5年目のときにバスが近くまで来るようになりました。武蔵小杉と宮崎小学校間を30分に1本、走るようになりとても楽になりました。田園都市線が、野川を通らなかったの、武蔵小杉と野川台間もバスが走るようになりました。今でも、歩けば梶ヶ谷と野川台間は40分は掛かります。野川台は高級住宅のイメージですが、本当に交通が不便でしたね。最近深夜バスができて本当に良かったですよ。

◆講中について

私たち村田家が入っているのは「下組」(しもぐみ)で14軒、「根方」(ねがた)は12軒、あとは金山(かなやま)と言い、3つの地域に分かれています。

私たちの「しもぐみ」は2ヶ月に1回、1軒ずつ持ち回りで決め事や情報交換の場として集まります。講中は昔から地域ごとに

農家が助け合っていくための組織ですから、
抜ける人がいても増えることはありません。
現在梶ヶ谷には約 4000 世帯の人が住んで
いますが、講中というのは皆さんにはなか
なか理解しづらいと思います。

(平成 26 年 8 月 4 日実施)